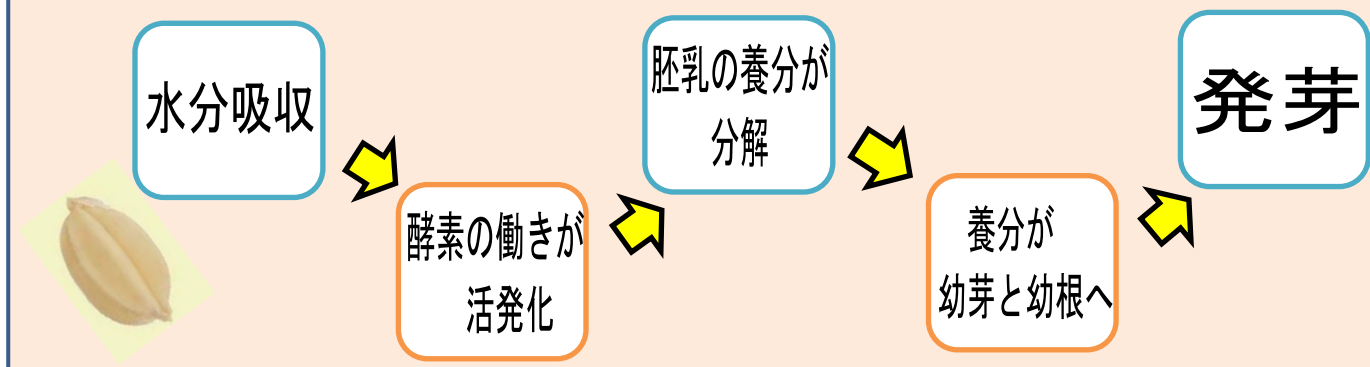




いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。  
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に  
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。

# 『適正な浸種』と『ハト胸催芽』

＜発芽のプロセス＞ ※参考（出芽率向上委員会資料）



種もみの十分な水分吸収は、『適正な浸種の第一歩』になります。

浸種する水温（特に浸け始めの水温）・浸ける日数が重要です。

もしも、浸種する水温が低い場合は水分吸収が不十分になり不発芽粒が多くなり催芽不揃いの原因に。  
逆に、浸種する水温が高い場合は催芽前に早く芽が出てしまい不揃いになるため注意しましょう！

## 浸種の目安

①水温の適温は11℃～13℃

×最低水温10℃以下・×最高水温15℃以上にならないように、水温を確認しましょう！

※最初に種子消毒をする時から、水温を確認してください！



## 催芽の目安



これです！！  
適期を確認！！  
ハトムネ割合70%以上

適正な出芽を確保するには、催芽の見極めが重要です。

ハトムネの割合になっているかをよく確認してから催芽を切り上げるようにして下さい！